白根町公民館報

編集発行人　清水節義
新潟県中蒲原郡
発行所　白根町公民館
印刷所　笹口印刷所

就任の挨拶

白根町長　庭山幸左衛門

新緑の薫る洵に快い季節となりました。

皆様には終日家業に御精励の事と存じ紙上を借りて敬意を表する次第であります。扨私は四月二十日間もなく町長に就任致しました。謹んで御報告申上げます。爾來自らを励まして皆様の御附託に添うべく努力をいたしております。私は元来如何なる事に向いましても必ず人の意見をよく聴きよく相談し、所謂衆知を集めて事を運んで來ました。この後の町政についてもこうした心構いで極めて民主的に皆様の与論を尊重し、皆様の代表たる議会議員の方々とよく話合い、よく相談して公僕の使命を全うしたいと思つています。

現在皆様の最も強い関心をよせておられるのは町村合併問題であると思います。是れは国策でもあり、合併町村共栄の策でもありますが、町將來に係る問題でありまして其の成果につきましては充分の研究と確信を以つて臨まねばなりません。幸い私の就任以來、日なお浅きに拘らず町議会でも全員是れが熱心に研究を重ね、活躍されて居ります。それでこの問題を財務、文教厚生、産業公企業、土木消防の四部に分けてそれぞれ専門的調査を進めているので、遠からず其の結論を得る事になると思つています。

なお緊急を要するものに中学校の校舎改築があります。御承知の通り現在の校舎は老朽其のもので危険極りなく、狭隘も限度を超えています。其の新改築は一刻も急がねばならぬのでありますが、進展中の町村合併問題が如何に解決するか其の結果をみて着手する心算であります是れに要する経費は最大の補助金と起債を利用したいと思つています。この事につきまして過日北部水道拡張工事費の起債申請に本省へ参りました際、直接政府要路の方々の耳に入れて來たのであります。

また商工業振興策としては中央の名士並に各関係者に懇願し連絡をつけて來ましたのでその実現を期していますが、具体化するには相当の迂路曲折を予想されますが、是また如何なる事がありましてもやり通す覚悟であります。

その他公営住宅の増築並びに保育所増設等は、絶対必要な事で是も県各担当者に申し入れてあるので近き將來に実現するものと確信しております。更に爲さねばならぬ問題が山積しておりますが、日を追うて一つ一つ解決してゆく心算であります。

私の町政に対する根本的の考え方は「町民の皆様の要望に応いる」これであります。それには是非皆様の御協力を得なければならないのでこの点特にお願い申上げる次第であります。

最後に一言申上げたい事は役場について御希望があつたり、事務取扱いに御不満がありましたら、御遠慮なく御話下さい。

"改むべきは改め"てお互いに明るい町を築き上げたいと思つております。

館報の編集方針について

―編集部―

館報創刊以来既に四年有余、振返る時感慨にやれど、どの号として満足に編集した事なく、唯々冷汗と遺憾あるのみ。専任有給職員とて一人もなく、全員年中無報酬、編集員皆が皆素人且つ浅学非才、加へるに各自の仕事、職場があるので多事多忙を極めるその余暇で、或は本業をサボタージュし、数回の企画立案、取材、原稿依頼、原稿書き、整理校正、編集、ゲラの校正等とごく少人数でやるのであれば、充実した館報に仕上げるには益々の困難を伴うわけ。

幸にして町民読者各位の支持と鞭撻があり、この温い協力により今日迄発行を続けて来た次第であります。

毎号の編集で我々が最も苦しんだことは"町政"と云うことであります。館報の使命の一つに町政の紹介、これに対する町民の批判、要望などが重要なポイントを占めるものであります（勿論、自治機関の御用ペーパーであつたり、特定の人に利益不利益を与えるが如き、片よつたものではなく）これが欠けている館報はあたかもウキスキーにアルコールがないと同様、発行意義半減なのでありますが、如何せん不可能に近いことでありました。

今回よりようやく四年間の編集プランを実現でき得る段階に到りました。

即ち新しい編集方針は

① 今迄の内容に加へるに

② 町当局の積極的協力を求め町政策なり、企画又、知らせなどを町民に正しく批判していただくべく報道する

③ 町当局、町議会に対する町民の要望、町政に対する町民の批判、賛否等の声を極力のせる。

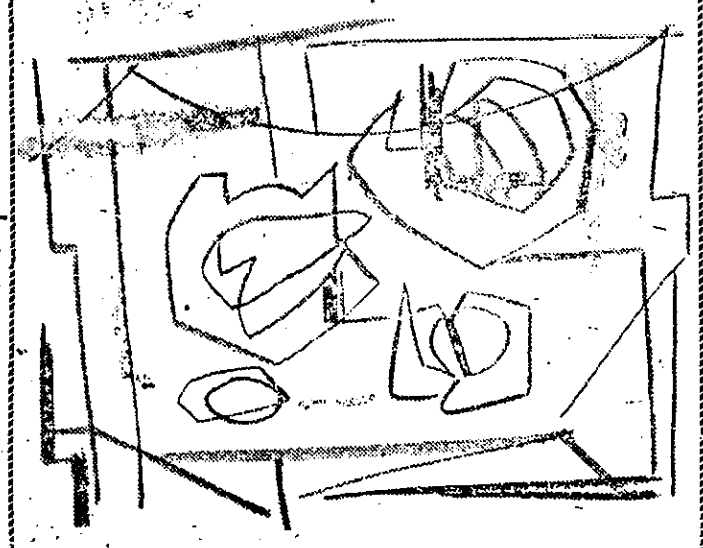
④ 館報独自の第三者的立場より町の動き等、取材、報道する。

⑤ 中央、県、郡郷の方々から白根にプラスする乃至は識つて頂きたい論文を求め掲載する。

以上の方針を実行することに依り館報を町当局、町議会そして町民、この三者の"かけ橋"となし或は又町の"談話室"たらしめ、且対外的には更に交流を深くしようとするものであります。なお右の実現には至難とデリケートな問題を含みますが「この新しき方針を了とされ、三者の理解ある協力支援を切望するものであります。

改めて記すまでもなく館報は読者各位の「税金」と云う負担で発行されております。換言すれば読者各位一人一人が発行人でもあるわけであります。館報のことについて意見批判等多々あるかと思いますが、遠慮なき御叱声、御教示を賜り度。そして更に愛され親しまれ、より充実した価値ある館報に育てゝ行きたい。これが編集委員一同のたつた一つの念願であります。

紙上デッサン展 (7)



卓上のポンカン

小田哲

四国の松山に居る友人から名物のポンカンを頂戴した。夏みかんによく似ている。写生をしたらと思い五つ六つ残して置いたのだが、二三日してみると子供達が何時の間にか食べ、皮だけが部屋の片隅に置いてあつた。今にも捨てられそうになつていたその皮を、早速卓上にのせて見た。――捨て去られようとしているものにも美がある――忠実な写生では満足出來ず、自分の好きな形や配合にしたが、描き終つた時は皮はすつかりしわだらけになつていた。

不朽の名著『万葉集難訓歌研究』と伊丹末雄氏について

「白根町略史、中蒲略史」の名文を館報に寄稿された伊丹氏はまだ二十七才の年若き白根中学社会科の一教師であることは読者の識つておられるところであるが同氏は又「万葉学」権威であり、その伊丹学説は万葉学史上に画期的偉業をうち立て古今魂を傾注する第一歩は始まる。処でどうして比の「九の歌」の解読は不可能とされていたのか鎌倉時代よりこの万葉の最高傑作の解読に幾多の学徒、例えば仙覚、契沖、加茂真淵、本居宣長、鹿持雅澄、条川定一、宮島弘等、これら万葉学の超ト級学者六十余名の精進にも拘わらずいずれも遂には解読不能とサジを投げざるを得なかつたものである。

読者も御承知の如く万葉時代は未だ假名はなく、漢字を借り用いて書いたもので、我々が現今万葉集を読むといつてもそれは原本ではなく国語に直された万葉集を読んでいるのである。されば「万葉学」に於いて各専門研究分野は多々あれど、漢字を国語に直す「訓詁学」が大きな領域を占めるのであり、伊丹氏の研究方面も主としてこの「訓詁学」である。少し横道にそれたが、解読不能とされていた「九の歌」を記してみよう。

宰千紀温泉之時額田王作歌

其鞆の浦の之大相七兄爪謁気吾瀬子之射立爲兼毛厳霍之御手之上尓

新何本

夕月の光踏みて立つ吾が夫子がい立たせりけむ厳槻がもと

昔から伝わる文字をそのまゝに然も根拠らしい根拠をもつて読んだ説として万葉学始つて以來千年有余、最初のそしてたつた一つのものであり、文字通り学界を驚歎せしめた解読であつた。

昭和十六年研究着手いらい案成り始めて公表したのは昭和二十二年、極く少人数に印刷配布した際斎藤茂吉をして「学界の定訓とならば万葉学徒の幸これに及くものなかるべし」と最大級の感歎詞をはなたせしめ二十三、四、五年と補正を加へ二十六年詳細に発表するに至り、万葉学界に「最も信用度の高いもの」即ち「定説」と称され「万葉学史上」に新しく加へられるようになつた。この間十有余年、読破した書物は中国日本にわたり数千册、発表されし論文数十篇に及んでいるが又同時に氏も先人の能もが通る茨の道をふんで來られたものである。昭和二十二、三、四、五年頃迄にはまだ相当ブ厂の声もあつたとか、なかんずく最もはげしく対立、論争したのは万葉学会長京大名誉教授沢瀉博士であつたとか……今は昔のこと……。

なお他の九篇は

「綜麻形乃」の訓について

「禁樹」の訓について

「枕之辺人」の訓

第一五六番の歌の訓

第一六〇番の歌の訓

第二四九番の歌の訓

第五三七番の歌の訓

「邑礼左変」の訓

第一二五九番の歌の訓

であり、その内容について、一々記し得ないがどの論文とて先人の不可能なるを明快に解読したもので貴重なる意義を有することは「九の歌の訓」に劣らぬものである。資料の揃つている中央や又文科系の大学を出た老熟の大学者ならいざ知らず、師範学校出、然も地方の中学の若き教師としての職務のかたわら斯の如き歴史的偉業を爲し遂げられた同氏の超天才的頭脳と超人的努力には感歎の二字あるのみ。

近き將来今回公表せられた「万葉集難訓歌研究」を更に補正し一流出版社より発行されるとのことであるかこの著は明治以降、故生田耕一氏の「万葉難語難訓考」沢瀉久孝博士の「万葉古径」などと共に否それ以上に万葉訓詁学書として万葉学に大きな意義を持つものであり、日本文化史上に不滅の光芒を放つものである。

終りに最近浚頭中の新しきテーマは、「万葉集巻一巻二の成立過程」と云う学界待望の問題で、完成の曉には又も万葉学史に輝く一頁を加へるものであるときく。

我々町民は同氏の白根に在られるのを誇りに思うと共に今後も続く同氏の研究を温かく静かに見守り、そしてよりよき研究の完成を念じて行きたい。

言寸考尺

吹けよ北風白根の町に。全国にも稀なその勇壮を誇る凧合戦がこの七日より始まつた　▲全国にも稀なといえばもう一つある。激烈を極めた政争といつ果つることなき長い議事この二つ、そこいらの町村の真似ができないものらしかつた▲処が最近政争は消滅し待望久しき明るい町会が実現し、町議諸公も熱心に町政を談じ、各委員は活潑な活動を開始、東奔西走し、昔日の政争議員のおもかげ今はなく、　別人の如く動いている▲先日も、書類鞄と腰弁一つで、近村を調査視察している議員一行に出合つたが、その真剣な姿に思わず熱いものがこみ上げてきた　▲尤も、これが清い、尊い一票によつて選出された議員の本來の姿であり、当然の行爲かも知れない　▲白根町の現状を見渡すとき、地に墜ちた町の信用回復、合併問題、教育問題等、町政施行以來の難問題が山積されている　▲まこと現在ほど白根町政治史上重大なものはなく且つ仕事のしがいもあろうというもの「御民われ生けるしるしあり」これは万葉歌人のみの感慨ではない　▲假に、もし、過去の感情のわだかまりや、いきさつにとらわれて重大問題の討議や採決がなされたりしては、悔を千載に残す　▲「雨降つて地固る」レベルの向上した議会に寄せる一万町民の期待は大きい大局的見地に立ち、是は是、非は非として住みよい町をつくるために層一層の努力を挙げてもらいたい。▲尤もこんなことは賢明なる町議諸公には百も二百も承知ではあろうが。